

教育・スポーツ

男子テニス部の強豪・私立相生学院高校(相生市)を3月に卒業した河内一真さん(18)が、今月1日付でプロに転向した。昨年の全日本ジュニア選手権18歳以下男子シングルスで優勝するなど、ジュニア世代での実績は国内トップ。強力なバックハンドを武器に、戦いの舞台を世界へと移す。

# 観衆を魅了させたい

—テニスを始めたきっかけは何ですか

4歳の時、父が遊びでテニスをしていたのを見て、3歳年上の姉と同じ自宅近くのテニスクラブに通うようになりました。とにかくスポーツが好きで、小学校の時はテニスとサッカーを週3回ずつ習っていました。

—なぜテニスに絞ったのですか

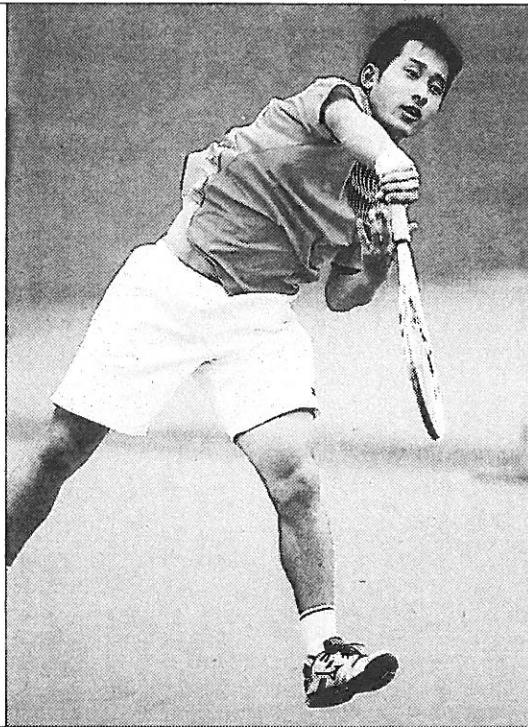
小学校高学年の時にテニスで頑張ろうと決めました。自分には個人競技が向いていると思うんです。よくても悪くても全部自分の責任じゃないですか。頑張った分だけ結果にも表れてくるし、納得できるかなど。

この人に聞く  
**プロアスリート**

## 相生学院からプロ転向 テニス選手 河内 一真さん(18)

—プロを意識し始めたのは小学5年のとき。遠征先の米国で試合を体感して、漠然と

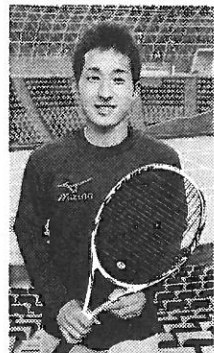
「プロになれたらいいな」と。プロ転向のきっかけになった試合はありますか



昨年11月には国内のトップ選手が集まる全日本選手権でもプレーした。東京都、河内さん提供

かわち・かずま 1994年、大阪府高槻市生まれ。中学校まで同市内でテニスを学ぶ。相生学院高校に入学後は、16歳以下の国別対抗戦ジュニア・デビス杯で日本の初優勝に貢献。昨年の高校総体ではエースとしてチームを引っ張り、男子団体で初優勝を果たした。姉、妹の3人兄弟。

練習場所には大阪の自宅から往復4時間かけて通い、6時間練習に没頭する。三木市のブルボンビーンズドーム



高校1年の時の国別対抗戦ジュニア・デビス杯です。世界で勝てたことがうれしくて、これをきっかけに真剣にプロになりたいと思いました。

—最も印象深い試合は

高校3年の時の全日本ジュニアの決勝戦です。納得してプロになりたかったので、優勝がプロ転向の最低条件と自分に言い聞かせて挑んだ大会でした。

実は高校2年の1年間は結果が出なくて、世界で勝てる自信をなくしてプロになるかすら迷っていました。プロ転向について、家族からは「自分で決めなさい」という一方、「高校で結果を残したら応援してあげる」とも言われました。それで、ここで腐ってはいけなないと、筋トレとか走り込みとかで体力アップに努めていました。

—決勝戦では第1セットを落としました

勝ちたい気持ちが強すぎました。でもここから、これまで頑張ってきた体力には自信がある、長時間の試合になれば勝機があると第2セットを粘ってもぎ取り、第3セットも取って逆転できました。決勝で負けていたら、プロになったかどうかかわかりません。

—得意なプレーは

バックハンドです。これで試合を組み立てて最後にフォアで決めるのが、自分の良い所を生かすプレーだと思っています。

—テニスのだいご味は

相手との駆け引きです。どんなプレーでいくべきか、毎回色んな状況を楽しんでいます。錦織圭選手のように世界のトップで活躍したいです。でもその前に、プロとして多くの人たちを引きつけられるプレーをしていきたいと思っています。

### 取材を終えて

「本当にテニスが好きじゃないとプロにはなりません」と笑うが、心から楽しんでテニスをしていることが全身から伝わってくる選手だ。取材ではさわやかな印象の受け答えの一方で、何度も「結果を残す」ことで「自分を納得させる」と口にした。とても自分に厳しく、そうでない結果が求められるプロの世界では生き残れないという決意を感じた。4大会で活躍する日を楽しみにしたい。

(島脇健史)